

淡青

「淡青」について
東京大学と京都大学(当時は東京帝国大学、京都帝国大学)が1920年に最初の対抗レガッタを瀬田川で行った際、抽選によって決まった色が「淡青(ライト・ブルー)」であり、本学の運動会をはじめスクール・カラーとして親しまれてきました。

新年度にはいり本誌の編集スタッフも一新し、3号の編集に取り組んできました。創刊号を刊行してから1年にしかなりませんが、この間に本学の広報にかんする状況は大きく変わりつつあると思います。本学から発信したい情報がいかに多くあるか、そして多くの方々に関心をおもちいただいているかを、私たち自身があらためて認識できたと実感しています。

本号の特集は、学部教育に焦点をあてた「東京大学における教育」です。本学の特徴のひとつは、教養学部で1・2年生全員を対象に行うヴァラエティにとんだリベラル・アーツ教育にあります。そして、3年生からの専門教育は、各学部・学科などでそれぞれに特徴あるカリキュラムがまわっています。取り上げることができたのはごく一部ですが、本学の教官がどのように教育を考え実施しているか、そして学生がどのように評価しているかについて、ありのままを紹介する企画です。また、学生がどのように1日を過ごしているかも、お伝えすることにいたしました。

総長には、この特集とも関連し学部学生と座談をしていただきました。学年と専門が異なる4名に参加していただきましたので、時間がやや不足したきらいはありますが、総長を囲んで東大と東大生について語る機会は有意義だったと思います。

「教育・研究の現場から」と「サイエンスへの招待」では、多くの学部・研究科あるいは研究者のなかから、今回は大学院教育学研究科・教育学部と海洋研究所、そして史料編さん所の黒田日出男教授に登場していただきました。「世界の中の東京大学」では、この夏に本学が主催校であった、東アジア研究型大学協会の学生キャンプを中心に紹介いたします。「キャンパス散歩」では、前号までの自然の姿から建造物あるいはモニュメントへと趣向を変え、まず時計塔を取り上げることにいたしました。

(東京大学広報委員長 大塚柳太郎)

総長を囲んで

総長と学生たちとの座談会

東大と東大生について語ろう

教育の在り方が問われている現在、
学生たちは何を考え、大学に何を期待しているのでしょうか。
総長を囲んで、学生たちの語る東大と東大生の現実とは。

司会 皆さんが入学する前に想像していた東京大学と、実際の東京大学に違いはありましたか。
酒井 入る前は変人、奇人が多くいるのかなと思っていましたが、自分にあうような変な人間があまりいなくて……。みんな勉強に熱心で真面目ですね。

田頭 変人はけっこう多いと思いますよ。(笑)

蓮實 変人ってどういう人のこと。

酒井 具体的にはいいにくいのですが、ふつうの人とはちがった考え方をするとか。

蓮實 あなたは変人なの。

酒井 変人になりたいと思っています。(笑)

田頭 いわゆるオタク系ですか。

酒井 オタクというよりは……。

田頭 一芸に秀でた人間とか。

酒井 そうです。自分は早稲田大学の映画サークルにはいっていたのですが、獨創性あふれる議論ができるのは早大生のほうが多いと思います。そういう人を変人、奇人といっているのです。司会 授業が終わった後で、たまり場でワーワーやるわけでしょう。東大ではそういうことは少ないですか。

酒井 少ないというわけじゃないんですけど、そういうところで独自の意見を言える人があまりいないんです。映画やドラマ、文化、経済など、いろいろな話をするのですけれども。

高木 無難な意見が多いということですか。

酒井 そうですね。

蓮實 変人、奇人のたぐいはどこにもいるでしょう。それに、そのような人を求めるのではなくて、自分が変人、奇人になって、おれって変なんだってみんなに思われたいじゃないの。(笑)

酒井 すでに思われているみたいですよ。(笑)

田頭 私は、この大学はもう少しアカデミックなところかと思っていましたが、本当にふつうの人が多い。あまり学究的でないのが気になりました。サブカルチャーが好きでマンガが好きで、映画が





ことについて自信を身につけた
いからです。
蓮實 いつか自信がでるだろう
ということではないと思うん
です。それぞれの年齢で、それぞ
れの時期に、人びとは知らない
ところまで勝負している。その人
たちのなかで自分は何のくらい
だろうと考えることはたえず必
要なだけけれども、あなたはま
ちがいなく勝負できるのです。
なぜかという、日本の工学部
みたいに工学のことだけを専門
にしている大学は世界にないか
らです。米国のMIT(マサチ
ューセツ工科大学)だって、大
学院はともかく、もっともつと
のんびりしたものですよ。

鈴木 比較する対象がどうい
うところなのか、見たこともあり
ませんし。
蓮實 どうしてほかを見なくて
やっていられるのでしょうか。世
界の大学に工学部なんてほとんどない。そうし
たら、自分が絶対上だという自信ができてき
ませんか。ただし、工学にかんしては上だ
けれども、果たしてそれでいいの
かという、自分に対する批判的な
視点も出てくると思つ。

田頭 それだけ進んでいる日本の工学部
がありながら、なぜアメリカのほう
がノーベル賞の受賞者が多いん
ですか。
蓮實 だって工学にノーベル賞な
んてないもの。
田頭 物理学賞とか化学賞とかは。
蓮實 その話をすると長くなるけ
れども、ぼくは絶対今後とれると
思っています。物理学賞にしても、
医学・生理学賞にしても。たまた
ま、あるレポートを読んだばかり
のところですが、私の考え

のかなというのが、ぼくからの
質問なんです。酒井 他大学の友
だちに会つと、「東大生」という
目で見られることはあります。で
も、自分は大学にブランドがある
とはまったく思っていないので、
東大生といわれても全然感じない
というか、どうでもいいです。同
調もしないです。高木 こんなに
いろんな人がいるのに一括りにさ
れるのは、気持ちのいいものじゃ
ないですね。田頭 東大生と東大
生じゃない人と一緒にいるときに、
東大生が馬鹿な振る舞いをする
と、東大生なのにそんな馬鹿なこ
としてと喜ぶ人がいるのは、おも
しろいと思います。蓮實 その楽し
みを与えてかまわないわけです。
ただし、そんなところに東大生と
しての本質はないわけでしょう。
同じことはぼくにもありますよ。
東大総長なのにと、みんなに指さ
されて。(笑)東大総長なのに北野
武と会つて「か言われますよ。で
も、そんなことは意に介していま
せんけどぬ。司会 東大生をほか
の人が特別視する原因のひとつは、
東大の入学試験といわれます。皆
さんはそれをくぐりぬけてきたわ
けですが、今のような入試をどう
思いましたか。田頭 私は入試自
体には賛成です。理系にかんして
ですが、いい問題をつくっていると
思います。鈴木 東大の入試問題は
むずかしいと思つているので、皆
さん方が東大に入られて、入試が
機能していると周りの人たちを見
ながら思いますか。高木 むずか
しい問題ばかりになると、ふつ
つうのまじめな人に不利じゃない
ですか。特別に塾とかにいこう
な人はいいかもしれないけど、
高校の教科書をきちんと勉強し
て高校生らしい生活を送つて、
入試もという人もいるわけから、
入つ

ているとおりでした。日本の学
問にはセックスアピールがない
んです。人をひきつけたい、正
しいことだけやってるんです。

田頭 パフォーマンスがないとい
うことですか。蓮實 パフォー
マンスもないし、優れた表現能
力もないということです。とこ
ろで、田頭さんは基礎医学や生
命科学なら東大だと先輩に聞か
れて入学したということですが、
どんな先生の授業を聞きたい
ですか。田頭 世界の最前線
で研究している人です。蓮實
 たとえばどうい先生。田頭
 利根川進さん(MIT教授)とか。
蓮實 利根川先生はもちろん立
派な方ですし、東大に来て話
していただく機会もあるう
かと思つます。それで、東大
の先生ではどうですか。田頭
 それは考えていませんでした。
蓮實 どうして。噂にだまされ
て東大に入ったのなら、本
当かどうかを試して、この先
生の授業をぜひ聞きたいとい
うのがなくていいの。田頭
 言われてみればそうですね。
蓮實 言われてみればじゃなく
て、それがふつうでしょう。す
こい先生がいますからみつ
けてもらなさいよ。あなたがこ
こを選んだのはまちがいない。
まちがいないけれども、その
ことをあなたがまだ確かめて
いないので、ぼくは驚きました。
田頭 甘かったです。探します。

東大生というアイデンティティ

司会 皆さんは東京大学に何を
期待してきたのでしょうか。ま
た、他大学と比べて東大はど
うあるべきなのでしょう。田頭
 ほかの大学と比べて、そんな
にちがうわけじゃないですよ。
蓮實 ちがいがなくていいとい
うのは、最初にぼくが言つた
でしょう。(笑)鈴木 学問にか
んしては、他大学のこととはわ
かないのですが、学生は違わ
ないと思つます。しか

た後でどつちが優秀なのかは
よくわかりません。蓮實 そ
こからまた競争が始まるわけ
です。入つた段階からね。

高木 ですから、いろんな人が
受かる可能性があるということ
では、難問ではなくて、リス
ナブルな問題のほうがいいと
私は思つます。田頭 そつなく
こなす人にとってですか。蓮
實 世の中には東大生はそつ
なくこなす人だといイメージ
があるわけですよ。もうひとつ
は、そつなくこなしているだけ
では、今後東京大学の力が落
ちるかもしれないという批判
も世の中にあります。あなた
は「そつなくこなす」と言つた
けれども、あなたは自分をそ
つなくこなす人ではないと思
つているでしょう。田頭 悪い
意味でそつないと思つます。
秀でたところが無いという意
味で。(笑)

総長がみる東大生

司会 この四人にかぎらず総
長からみて、最近の東大生に
対する考えをお聞かせください。
蓮實 東大総長は東大教授で
はないんです。東大で教える
こともできない。だから最近
の学生はよく知らないけれど、
ぼくが過去一年ぐらいたか
ざりでは、非常におもしろい
学生がいる。ほかのところで
学んだ学生を外国の大学に
だしたときに、ああいう優
れた学生をぜひもう一度送
つてくれと言われるのがほと
んどです。ですから、ほか
たちが教えた学生は世界に
つうじるといふ自信

ぼくが過去一年ぐらいたかざり
では、非常におもしろい学生
がいる。ほかたちが教えた学
生は、本当に自分でやりたい
仕事をもつていれば、世界に
通用するといふ自信はあり
ます。

蓮實重彦(はすみ・しげひこ) 東京大学総長



し、こつち側がそう思つても、
向こうは何か一線を画したよ
うな見方をする風潮は感じ
ます。蓮實 その風潮に対して
あなたはどつ振る舞います
か。本当は同じなのに。鈴木
 振る舞いにくいですが。ど
う振る舞つていいのかわか
らなくて。蓮實 向こうがそ
う扱うならば、自分もそう
なつちやうぞということはい
ないですか。鈴木 ないです。
一緒だと知つてほしいと思
つています。蓮實 個人の
本質なんか知らないとい
うのが社会ですよ。それな
のに、知つてほしいとい
うのは甘えじゃないですか。
鈴木 そうですね。蓮實 この
大学は国民のお金をつか
つて、よい条件のなかで勉強
させてもらつていると思
つます。それでも、ぼくは君
たちと一緒になんだよつて
言い張つていられますか。
鈴木 確かに、すぐそれを理
解してもらつてほしいと思
つています。蓮實 それから、
どうしてそのことを理解し
てもらわなければいけない
のですか。同じということ
は原則としてわかりませ
ん。でも、人間一人ひとり
ちがうわけでしょう。そう
したら、君たちがそう思
つたら、ぼくはちがつた
ところを見せてあげよう
つて気にならないですか。
なにも重荷になつてまで、
本当は同じなんだわかつ
てということに、エネルギー
を費やすことはないじゃ
ない。鈴木 前にも言つた
のですが、ほかの人に同調
するほうが楽な面があるん
です。田頭 日本人ですね。
蓮實 そんな楽な面について
は、三年か四年後に本
当の競争をするときには、
ちつとも楽ではなくなる
ものです。あなたは大学
院に進むかもしれない。そ
うすると本当の競争が始
まるわけです。そのときに
楽というのは何の役にも
立ちません。だから、何
の役にも立たない楽に、
慣れていていい

はあります。

現在では、外国の先生方も
東大を非常に重要な人材
供給源と思つているわけ
です。世界のいろんな大学
の先生がここにいらつし
やいます。東大の学生は
とにかくすごいと言つ
ています。みんながみんな
ではないだろうけど、本
当に自分でやりたい
仕事をもつていれば、
かならず世界にも通用
するということ。ぼくが
学生だつたころよりも、
あなた方のほうがは
るかに恵まれていると思
つし、はるかに才能も
あると思つるので、その
ことを強く訴えかけたい
のです。

高木 自分に才能がある
とは思えませんが。田頭
 私も思いません。蓮實
 これは客観的な比較の
問題であつて、私たちの
ころは、才能というものが
開花する以前の段階に
学生はおかれていたわけ
です。ですから、ぼくは
そんな東大から一度出
たわけ。ところが今は、
あなた方のように、その
程度の東大だつてまあ
いいやと思つているわけ
でしょう。ところが、東
大は明らかによくなつ
てきているんです。だ
から、それを活用して
いただきたいということ
です。私たちのころに
比べて世界的な研究者
はたぶん一倍くらい、
もっと増えたかもしれ
ませんね。そういう
方々に授業をして
いただいているのだから、
絶対におもしろいはず
です。

(二〇〇〇年七月十四日)
司会 大塚柳太郎(おおくま・りゅうたろう) 広報委員
長/羽田兵はねだ・まさし 東洋文化研究所教授